

## ブラックロック・ ワールド・インカム・ストラテジー (愛称)BR Win

第 219 期末(2023 年 12 月 20 日)	
基準 価 額	11,813 円
純 資 産 総 額	1,498 百万円
第 214 期～第 219 期	
騰 落 率	5.1%
分 配 金 合 計	120 円

(注) 騰落率は収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

### 追加型投信／海外／債券 交付運用報告書 第37作成期

第214期(2023年7月20日決算) 第215期(2023年8月21日決算)  
第216期(2023年9月20日決算) 第217期(2023年10月20日決算)  
第218期(2023年11月20日決算) 第219期(2023年12月20日決算)  
作成対象期間(2023年6月21日～2023年12月20日)

#### 受益者の皆様へ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。  
さて、「ブラックロック・ワールド・インカム・ストラテジー(愛称:BR Win)」は、このたび、第37作成期の決算を行いました。

当ファンドは、投資対象ファンドへの投資を通じて、世界の様々な種類の債券に幅広く分散投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行います。当作成期につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、当作成期の運用経過についてご報告いたします。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

#### ブラックロック・ジャパン株式会社

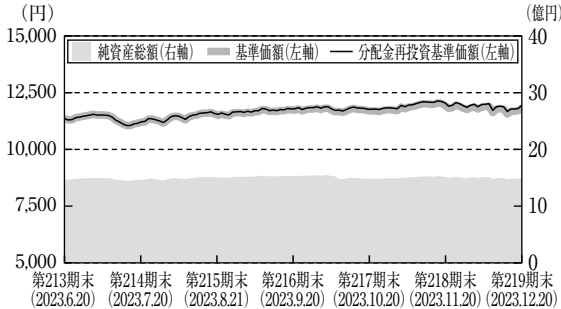
〒100-8217 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号  
丸の内トラストタワー本館

運用報告書に関するお問い合わせ先  
電話番号:03-6703-4300  
(受付時間 営業日の9:00～17:00)  
ホームページアドレス  
[www.blackrock.com/jp/](http://www.blackrock.com/jp/)

- 当ファンドは、投資信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記弊社ホームページの「ファンド・ETF情報」、「投資信託」から当ファンドのファンド名を選択することにより、当ファンドの「運用報告書(全体版)」を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 「運用報告書(全体版)」は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

◇運用経過

■当作成期中の基準価額等の推移について(第37作成期:2023年6月21日~2023年12月20日)



第214期首:11,351円  
 第219期末:11,813円(既払分配金120円)  
 騰落率:5.1%(分配金再投資ベース)

- \* 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- \* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- \* 分配金再投資基準価額は、前作成期末の基準価額に合わせて指数化しています。

■1万口当りの費用明細

項目	第214期~第219期 (2023.6.21~2023.12.20)		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	92円	0.791%	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は11,632円です。
( 投信会社 )	( 42 )	( 0.357 )	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
( 販売会社 )	( 48 )	( 0.412 )	販売会社分は、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
( 受託銀行 )	( 3 )	( 0.022 )	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	-	-	売買委託手数料=期中の売買委託手数料/期中の平均受益権口数
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税=期中の有価証券取引税/期中の平均受益権口数
(d) その他費用	10	0.083	その他費用=期中のその他費用/期中の平均受益権口数
( 保管費用 )	( 3 )	( 0.027 )	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
( 印刷費用・監査費用等 )	( 6 )	( 0.055 )	目論見書および運用報告書の作成・印刷費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用等の諸費用
( その他 )	( 0 )	( 0.001 )	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	102	0.874	

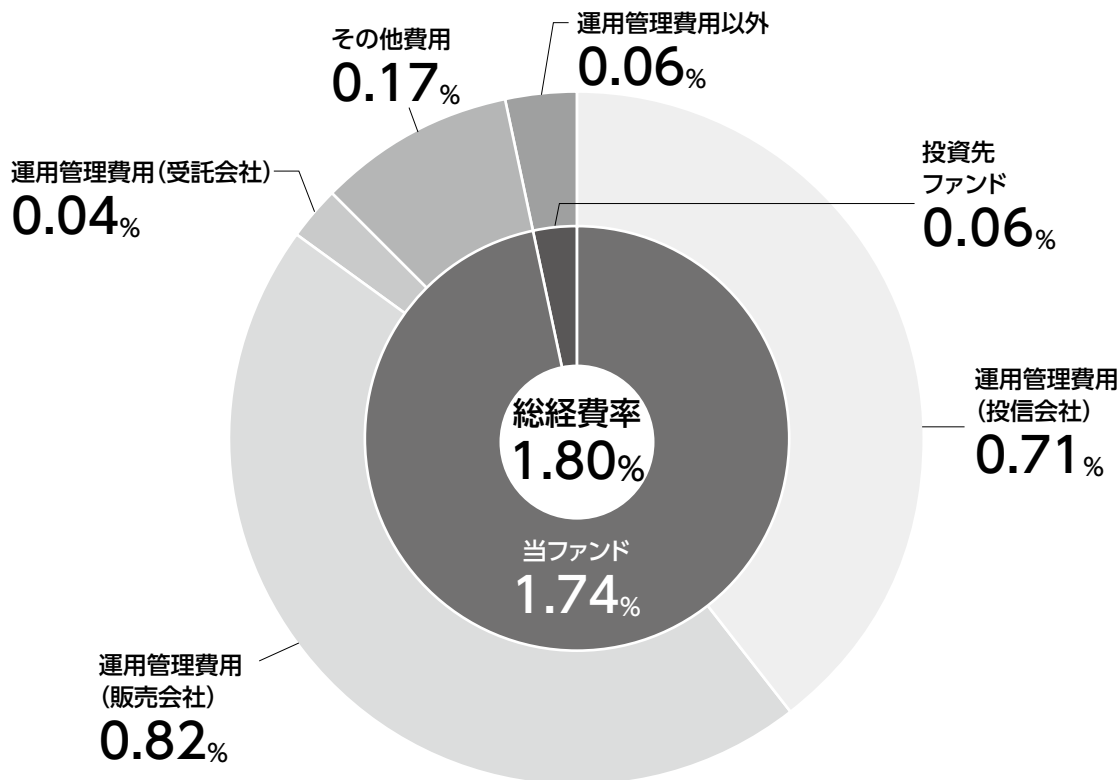
(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当りのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

■総経費率



※当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は1.80%です。

総経費率(①+②+③)	1.80%
①当ファンドの費用の比率	1.74%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.00%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.06%

(注1)①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2)各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3)各比率は、年率換算した値です。

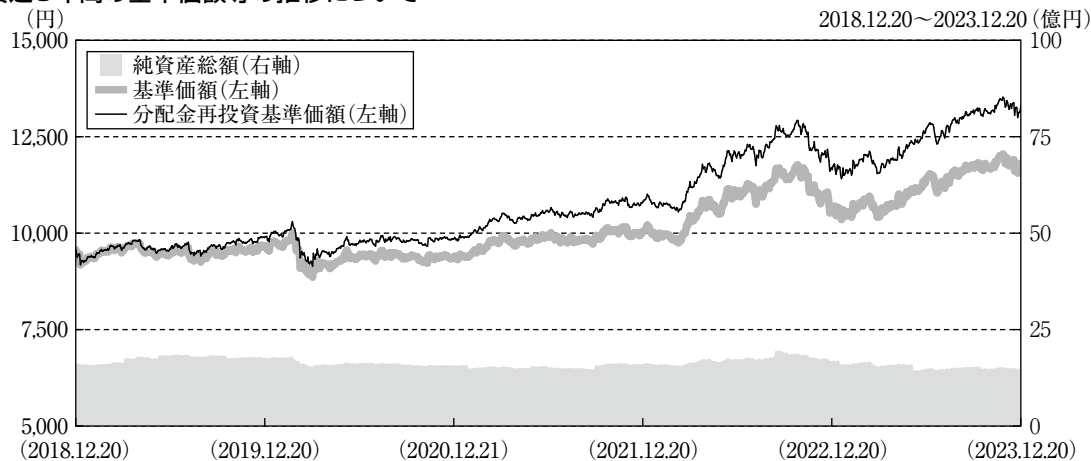
(注4)投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券です。

(注5)①の費用は、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6)①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7)上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

■最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、2018年12月20日の基準価額をもとに指数化したものです。  
 \* 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 \* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2018年12月20日 期初	2019年12月20日 決算日	2020年12月21日 決算日	2021年12月20日 決算日	2022年12月20日 決算日	2023年12月20日 決算日
基準価額(分配落) (円)	9,576	9,641	9,350	9,935	10,766	11,813
期間分配金合計(税込み) (円)	-	240	240	240	240	240
分配金再投資基準価額の騰落率(%)	-	3.2	△ 0.5	8.9	10.8	12.1
純資産総額 (百万円)	1,571	1,761	1,566	1,594	1,718	1,498

(注) 当ファンドは、特定のベンチマークに連動する運用、あるいはそれを上回る運用を目指すものではありません。したがって当ファンドはベンチマークおよび参考指数を設定していません。

## 投資環境について

米国では、当作成期間において金利は小幅上昇となりました。期の前半において、インフレは減速基調で推移していたものの、引き続き米連邦準備制度理事会(FRB)の目標値を上回っていることや底堅い経済状況、FRBが高い政策金利水準をより長期に渡って維持する姿勢を示したことを受けて金利上昇となりました。一方、その後インフレが想定以上に減速したことや、労働市場のひっ迫具合に緩和がみられていること、FRBが利上げサイクルの終了を示唆したことがなどを受けて金利低下となりました。

6月、FRBは政策金利の据え置きを決定したものの、連邦公開市場委員会(FOMC)メンバーが予想する2023年末時点での政策金利見通しの中央値が50bps引き上げられるなど、今後の追加利上げを示唆するタカ派的な据え置きとなり、金利上昇となりました。7月、FRBは市場予想通り25bpsの利上げを行い、9月の会合については、データ次第で利上げを実施する可能性も少ない可能性もあるとしたものの、雇用統計や4-6月期のGDP成長率等、市場予想を上回る堅調な経済指標が引き続き見られたことから金利上昇となりました。8月、大手格付け会社Fitch社が米国債の格付けを引き下げたことや雇用統計が市場予想を上回ったことに加え、国債の増発が発表されたことを背景に金利は上昇しました。9月、FOMCでは市場予想通り政策金利据え置きとなったものの、政策金利見直しや経済見通しがタカ派に傾いていたことで「より高く長く」政策金利が据え置かれるという観測が広がり、長期ゾーン主導で金利上昇となりました。10月は、中東における軍事衝突が警戒され、一時的に金利が低下する局面があったものの、経済指標が市場予想比堅調であったことや、パウエルFRB議長が追加的な引き締めの可能性について言及したことなどを受けて、金利は長期ゾーン主導で上昇しました。11月は、発表されたインフレ指標など経済指標が市場予想を下回ったことや、四半期定例入札において予想ほど発行が増額されていなかったことから需給不安が後退し、金利低下となりました。12月は、FOMCで市場予想通り政策金利据え置きが発表されたものの、政策金利見通しがハト派に傾いたことや2024年の利下げについて議論し始めたことなどを受けて金利低下となり、米10年国債利回りは3.85%で当作成期を終えました。

欧州では、当作成期において金利は低下しました。期の前半において、インフレは減速基調で推移していたものの、引き続き欧州中央銀行(ECB)の目標値を上回っていることや底堅い経済状況、ECBが必要な限り政策金利を据え置く姿勢を示したことを受けて金利上昇となりました。一方、その後インフレが想定以上に減速したことや、経済指標の鈍化、ECBが利上げサイクルの終了を示唆したことなどを受けて金利低下となりました。

6月、ECB会合において市場予想通り25bpsの利上げが行われたものの、インフレ見通しがヘッドライン・コアともに2023年から2025年まで上方修正されたことがタカ派と捉えられ、金利は上昇しました。7月、ECB会合において市場予想通りの25bpsの利上げが行われたものの、グローバルで底堅いマクロ環境が引き続きみられる中、金利は上昇しました。8月、欧州各国のPMI(購買担当者景気指数)が予想を下振れたことや中国経済の先行き不安等から金利は低下しました。9月、ロシアやサウジアラビアによる減産や輸出削減を背景とするエネルギー価格の上昇等を受け金利が上昇したほか、ラガルド総裁が必要な限り政策金利を据え置くことと発言したことで金利が上昇しました。10月、ECB会合で市場予想通り利上げが見送られたものの、ラガルド総裁が記者会見で成長率の下振れの可能性等に言及したことや中東情勢の緊迫化を受けたリスクオフから金利は低下しました。11月、インフレ指標等の経済指標が予想を下回ったことや、米国金利低下に追随する形で欧州金利は低下しました。12月、経済指標の鈍化やECB主要メンバーから利上げサイクルの終了を示唆するコメントを背景に金利は低下し、独10年国債利回りは1.97%で当作成期を終えました。

## ポートフォリオについて

当作成期を通じて、当ファンドでは、「BGF フィクスト・インカム・グローバル・オポチュニティーズ・ファンド」を高位に、「BGF USダラー・ショート・デュレーション・ボンド・ファンド」を低位に組入れた運用を行いました。

### <BGF フィクスト・インカム・グローバル・オポチュニティーズ・ファンド>

金利リスクについては、柔軟な投資戦略に基づき、ポートフォリオのデュレーションを長期化し、3-4年の間で機動的に調整しました。当作成期、グローバルにお

けるインフレの低下や労働市場をはじめマクロ環境に緩やかな減速を見られる中、利上げサイクルの終了が近いと判断し、デュレーションを長期化しつつ、日々のボラティリティを鑑みて機動的に調整しました。欧州についても、インフレの減速を受けてECBによる金融引き締めが終盤に近づいていることや、経済指標の鈍化を受けて長期金利中心に保有しました。クレジット資産においては、インフレの低下や景気は減速するものの、深刻なリセッションに陥る可能性は低いと考えクオリティの高い資産クラス中心にリスクを追加しました。新興国においてはインフレの低下や中央銀行の金融政策が緩和に転換していること、また高い利回り水準を評価するものの、中国景気の減速懸念や金利市場のボラティリティ等を鑑み機動的に調整しました。

なお、当作成期におけるパフォーマンスの変動要因は以下のとおりです。

#### (主なプラス要因)

- ・ 金利デュレーションのポジショニング
- ・ 欧州クレジットや投資適格社債、米国ハイ・イールド社債の保有
- ・ 証券化商品の保有

#### <BGF USダラー・ショート・デュレーション・ボンド・ファンド>

主に米ドル建ての短期の投資適格社債に投資することで、トータル・リターンを最大化を目指した運用を行いました。

#### ベンチマークとの差異について

当ファンドは、特定のベンチマークに連動する運用、あるいはそれを上回る運用を目指すものではありません。したがって当ファンドはベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

#### 分配金について

収益分配金は基準価額水準、市場動向等を勘案して、214期(1万口あたり20円)、215期(1万口あたり20円)、216期(1万口あたり20円)、217期(1万口あたり20円)、218期(1万口あたり20円)、219期(1万口あたり20円)とさせていただきます。留保益の運用につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行っております。

#### ■分配原資の内訳(1万口当り)

項目	第214期	第215期	第216期	第217期	第218期	第219期
	2023年6月21日 ～2023年7月20日	2023年7月21日 ～2023年8月21日	2023年8月22日 ～2023年9月20日	2023年9月21日 ～2023年10月20日	2023年10月21日 ～2023年11月20日	2023年11月21日 ～2023年12月20日
当期分配金(税込み)	20円	20円	20円	20円	20円	20円
対基準価額比率	0.18%	0.17%	0.17%	0.17%	0.17%	0.17%
当期の収益	17円	20円	20円	17円	20円	16円
当期の収益以外	2	-	-	2	-	3
翌期繰越分配対象額	3,549	3,563	3,577	3,575	3,687	3,684

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## 今後の運用方針について

引き続き、主要投資対象ファンドである「BGF フィクスト・インカム・グローバル・オポチュニティーズ・ファンド」を高位に組入れ、世界の様々な種類の債券に幅広く分散投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行う方針です。

投資先ファンドにおける今後の運用方針は以下の通りです。

### <BGF フィクスト・インカム・グローバル・オポチュニティーズ・ファンド>

中央銀行は引き続き難しい政策運営を強いられると考えるものの、多くの中央銀行の利上げサイクルが終了したことを示唆しています。米国では、インフレが鈍化していること、また労働市場も鈍化が見られていることから、FRBは政策金利を据え置き、市場の焦点は利下げのタイミングに移ると考えます。欧州においては、11月のCPI速報値など最近の経済指標を踏まえると、ECBが2024年4-6月期から利下げを開始する可能性があるとの確信度がさらに高まったと見ています。

足元の市場環境においては、引き続き高クオリティの短期債を選好します。ポートフォリオでは、2024年に向けて利回りカーブがスティーブ化する可能性に備え米短中期ゾーンのデュレーションや欧米の投資適格社債の保有を選好します。今後、インフレや経済成長の鈍化を背景に金融政策を巡る不透明感が更に後退した場合には米国や欧州のデュレーションを長期化する方針です。日本では、イールド・カーブ・コントロール(YCC)政策が実質的に撤廃されたことに加え、先月行われたGDP成長率の3%に相当する財政刺激策の発表や足元の円安水準を鑑みて、日本のデュレーションショートを維持する方針です。また、新興国債券においても、メキシコ、ブラジルなど格付けが高くファンダメンタルズが良好で高い利回りを提供しつつ、利下げへの道筋が明確である国を選別的に保有する方針です。

### <BGF USダラー・ショート・デュレーション・ボンド・ファンド>

当ファンドは、引き続き主に米ドル建ての短期の投資適格社債に投資することで、トータル・リターンを最大化を目指した運用を行う方針です。

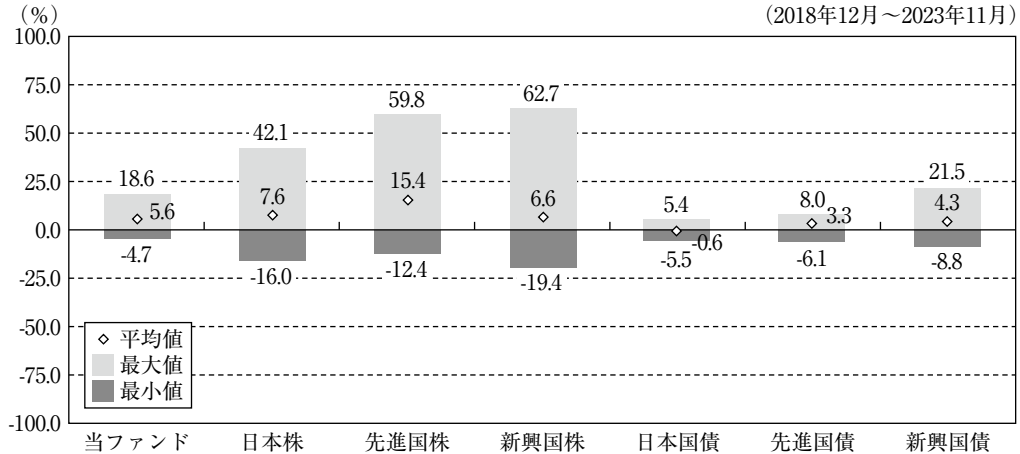
## ◇当ファンドの概要

商品分類	追加型投信/海外/債券
信託期間	無期限(設定日:2005年7月7日)
決算日	毎月20日(ただし休業日の場合は翌営業日)
運用方針	<p>①主として「ブラックロック・グローバル・ファンズ(ルクセンブルグ籍証券投資法人) フィクスト・インカム・グローバル・オポチュニティーズ・ファンド クラス」投資証券」および「ブラックロック・グローバル・ファンズ(ルクセンブルグ籍証券投資法人) USダラー・ショート・デュレーション・ボンド・ファンドクラスX投資証券」(以下各々を「BGF フィクスト・インカム・グローバル・オポチュニティーズ・ファンド」および「BGF USダラー・ショート・デュレーション・ボンド・ファンド」といいます。)への投資を通じて、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行います。</p> <p>②外貨建資産については、原則為替ヘッジを行いません。</p>
主要運用対象	<p>当ファンドは、ブラックロック・グループが運用する「BGF フィクスト・インカム・グローバル・オポチュニティーズ・ファンド」および「BGF USダラー・ショート・デュレーション・ボンド・ファンド」に投資します。</p> <p>「BGF フィクスト・インカム・グローバル・オポチュニティーズ・ファンド」を主要投資対象ファンドとし、その組入比率を高位に保ちます。</p>
運用方法	投資対象ファンドへの投資を通じて、世界の様々な種類の債券に幅広く分散投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行います。
分配方針	<p>月1回の毎決算時(毎月20日。休業日の場合は翌営業日)に、原則として以下の方針に基づき、分配を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益および売買損益(繰越欠損補填後、評価損益を含みます。)等の全額を分配対象額の範囲として分配を行います。</li> <li>■ 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。</li> <li>■ 留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。</li> </ul> <p>※基準価額水準、市況動向等によっては分配を行わないことがあります。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p>



(参考情報)

◇代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

\*上記は、2018年12月～2023年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

\*上記の騰落率は直近月末から60カ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

\*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

\*各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株……MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)

新興国株……MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

日本国債……NOMURA-BPI国債

先進国債……FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債……J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

<各指数について>

東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有する我が国を代表する指数です。東証株価指数(TOPIX)(配当込み)の指数値および東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に関するすべての権利・ノウハウおよび東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、東証株価指数(TOPIX)(配当込み)の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。

MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発、計算した株価指数です。MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)は日本を除く世界の主要先進国の株式を、また、MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は新興国の株式を対象として算出した指数です。同指数に関する著作権、知的財産その他の一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、日本国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。同指数に関する知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、NOMURA-BPI国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI国債を用いて行われるブラックロック・ジャパン株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)は、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが発表しており、新興国の現地通貨建ての国債を対象として算出した指数です。同指数に関する著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属しています。

◇ファンドデータ

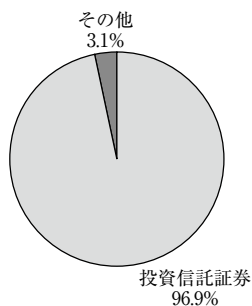
■当ファンドの組入資産の内容

○組入ファンド等

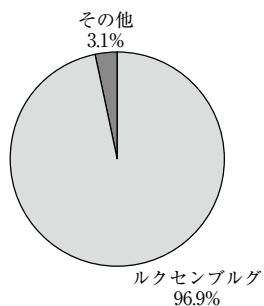
銘柄名	比率
BGF フィクスト・インカム・グローバル・オポチュニティーズ・ファンド	95.9%
BGF US ダラー・ショート・デュレーション・ボンド・ファンド	1.0
その他	3.1

(注) 比率は第219期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

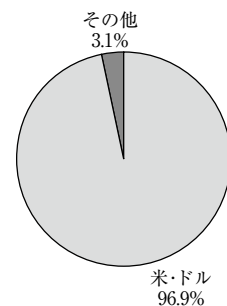
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は第219期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

■純資産等

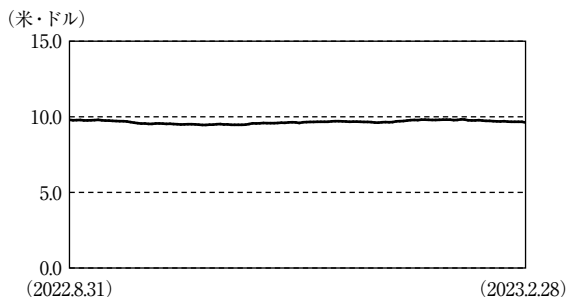
項目	第214期末	第215期末	第216期末	第217期末	第218期末	第219期末
	2023年7月20日	2023年8月21日	2023年9月20日	2023年10月20日	2023年11月20日	2023年12月20日
純資産総額	1,463,834,135 円	1,498,293,849 円	1,529,359,664 円	1,479,856,415 円	1,514,955,826 円	1,498,869,973 円
受益権総口数	1,307,648,138 口	1,303,303,462 口	1,304,106,289 口	1,266,512,101 口	1,268,586,031 口	1,268,874,827 口
1万口当り基準価額	11,194 円	11,496 円	11,727 円	11,685 円	11,942 円	11,813 円

\* 当作成期間(第214期～第219期)中における追加設定元本額は27,437,018円、同解約元本額は55,897,591円です。

■組入上位ファンドの概要

◆BGF フィクسد・インカム・グローバル・オポチュニティーズ・ファンド

○基準価額の推移



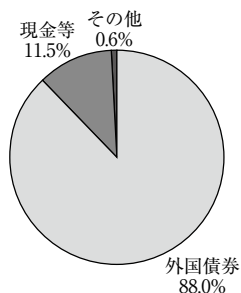
○上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
TREASURY NOTE 1.25 11/30/2026	米・ドル	5.1%
TREASURY NOTE 2.875 05/15/2032	米・ドル	4.5
UMBS 30YR TBA(REG A)	米・ドル	3.5
TREASURY BOND 2.875 05/15/2052	米・ドル	2.8
FHLMC 30YR UMBS	米・ドル	2.0
TREASURY (CPI) NOTE 0.625 01/15/2024	米・ドル	1.7
TREASURY (CPI) NOTE 0.5 04/15/2024	米・ドル	1.6
FNMA 30YR UMBS SUPER	米・ドル	1.4
FNMA 30YR	米・ドル	1.3
SPAIN (KINGDOM OF) 2.55 10/31/2032	ユーロ	1.3
組入銘柄数	2,798 銘柄	

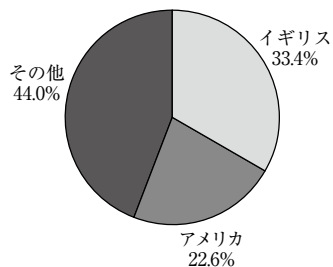
○1万口当りの費用明細

当該情報の取得が不可能であるため記載しておりません。

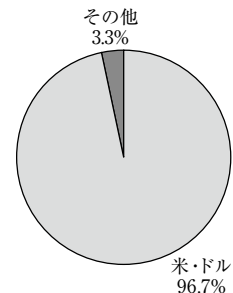
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注2) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注3) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

\* 当社適時開示資料作成にあたり使用しておりますブラックロック・グループのデータに基づき記載しております。上記ファンドの管理会社が作成しているデータに基づく運用報告書(全体版)の参考情報と相違する場合があります。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。